かすかな声

太宰治

青空文庫

信じるより他は無いと思う。私は、馬鹿正直に信じる。ロマンチシズムに拠って、夢の力に拠って、難関を突破しようと気構えている時、よせ、よせ、帯がほどけているじゃないか等と人の悪い忠告は、言うもので無い。信頼して、ついて行くのが一等正しい。運命を共にするのだ。一家庭に於いても、また友と友との間に於いても、同じ事が言えると思う。

信じる能力の無い国民は、敗北すると思う。だまって信じて、だまって生活をすすめて行くのが一等正しい。人の事をとやかく言うよりは、自分のていたらくに就いて考えてみるがよい。私は、この機会に、なお深く自分を調べてみたいと思っている。絶好の機会だ。

信じて敗北する事に於いて、悔いは無い。むしろ永遠の勝利だ。それゆえ人に笑われても恥辱とは思わぬ。けれども、ああ、信じて成功したいものだ。この歓喜！

だまされる人よりも、だます人のほうが、数十倍くるしいさ。地獄に落ちるのだからね。

不平を言うな。だまって信じて、ついて行け。オアシスありと、人の言う。ロマンを信じ給え。「共栄」を支持せよ。信ずべき道、他に無し。

甘さを軽蔑する事くらい容易な業は無い。そうして人は、案外、甘さの中に生きている。他人の甘さを嘲笑しながら、自分の甘さを美徳のように考えたがる。

「生活とは何ですか。」

「わびしさを堪える事です。」

自己弁解は、敗北の前兆である。いや、すでに敗北の姿である。

「敗北とは何ですか。」

「悪に媚笑する事です。」

「悪とは何ですか。」

「無意識の殴打です。意識的の殴打は、悪ではありません。」

議論とは、往々にして妥協したい情熱である。

「自信とは何ですか。」

「将来の燭光を見た時の心の姿です。」

「現在の？」

「それは使いものになりません。ばかです。」

「あなたには自信がありますか。」

「あります。」

「芸術とは何ですか。」

「すみれの花です。」

「つまらない。」
「つまらないものです。」

「芸術家とは何ですか。」
「豚の鼻です。」
「それは、ひどい。」
「鼻は、すみれの匂いを知っています。」

「きょうは、少し調子づいているようですね。」
「そうです。芸術は、その時の調子で出来ます。」

青空文庫情報

底本：「太宰治全集10」ちくま文庫、筑摩書房
　　1989（平成元）年6月27日第1刷発行
底本の親本：「筑摩全集類聚版太宰治全集第十巻」筑摩書房
　　1977（昭和52）年2月25日初版第1刷発行
初出：「帝国大学新聞　第八百三十三号」
　　1940（昭和15）年11月25日発行
※初出時の表題は「独語いっ時」です。
入力：土屋隆
校正：noriko saito
2005年3月17日作成
2016年7月12日修正
青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（http://www.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

かすかな声

太宰治

2026年10月1日　第二版

奥　付

発行　　青空文庫

URL　　http://www.aozora.gr.jp/
E-Mail　　info@aozora.gr.jp

作成　　青空ヘルパー　　赤鬼@BFSU
URL　　https://aohelp.club/
BiliBili　　https://space.bilibili.com/10060483

Special Thanks
　青空文庫　威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー http://aohelp.club/
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
http://tokimi.sylphid.jp/